

平成 19 年（2007 年）9 月 18 日

山陽小野田市長 白井 博文 様

山陽小野田市新病院建設構想検討委員会
委員長 砂 川 功

山陽小野田市新病院建設構想策定に関する基本的事項について（中間答申）

平成 19 年 7 月 30 日に市長から当委員会に諮問を受けました事項につきまして、審議を行いましたので次の通り中間答申を行います。

前回の将来構想検討委員会の答申内容を踏まえて、山陽小野田市の将来的な医療ニーズを勘案しながら、新病院の必要性を含めて、理念、規模、内容等について議論を進めました。基本的な考え方といたしましては、小野田・山陽両市民病院とも建設後かなりの年数が経過し建物・設備とも老朽化が著しく、特に山陽市民病院は建物の維持補修に多額の費用を必要としますが、財政的に厳しい状況であります。これらを踏まえて両病院を廃止し、市の中で最もふさわしい場所に両病院の統合という形で新病院の建設が望ましいと思われれます。

新病院の規模や内容等の具体的な事柄を議論するにあたり、現在大変厳しい経営状況にあります山陽市民病院の動向を決めておくことが新病院の在り方の決定に必要不可欠でありますので、新病院建設の審議に当たりましては、最初に山陽市民病院の統合について議論を行いました。

山陽市民病院は昭和 28 年に共立厚狭国保中央病院として、20 床で開設され、その後、必要に応じて次第に増床・充実してきました。今日まで地域の中核病院として一般医療はもとより、救急医療、急性期医療、慢性期医療と時代の変遷に伴った適切な医療を実施してきた歴史と伝統があり地域の皆様に親しまれた病院であります。しかし、最近の医療環境の激変により、すでに経営的には極めて厳しい状況にありますが、市の一般会計からの繰り入れにも限界があり、今後の収支改善は見込めないであろうし、根本的に施設・設備の老朽化が著しく、安全性を優先すべき病院としての機能を十分に発揮できる状態ではないとの結論に至りました。それを踏まえて新病院建設の前提として小野田市民病院をとりあえず山陽小野田市民病院として活用し、山陽市民病院を速やかに山陽小野田市民病院に統合することが望ましいという結論を出しました。

すでに厚狭地区には数多くの診療所が存在しております。しかし、統合という事態になれば、近隣の住民の皆様が不便になられることは否めませんが、交通の利便性を考慮することで、他地区の病院への通院の不便を少しでも軽減を図る必要があります。また、現在、山陽市民病院に入院しておられる患者様及びそのご家族に対しましては、病院の施設的・財務的な厳しさを十分に理解していただき、可及的に希望される病院又は施設に移動していただく手配を行うことに万全の努力を傾注することを要望します。また、現在の職員は配置転換等により雇用の確保をお願いします。

以上の理由により下記の通り中間報告として提唱させていただきます。

なお、諮問いただきました内容につきましては、継続して審議を行って参ります。山陽市民病院の動向を踏まえて、ある程度の結論又は判断が整理できました時点でご報告をさせていただくことにいたします。

記

- 1 新病院建設に向けて、山陽市民病院については建物の老朽化、財務的観点から速やかに統合すること。
- 2 現在入院中の患者さんの転院、退院については万全の対応をすること。
- 3 統合後に新病院建設までの間、山陽地区の地域医療については十分配慮すること。
- 4 山陽市民病院の職員については、配置転換等により雇用の確保をすること。